

多数アンカー式補強土壁工法

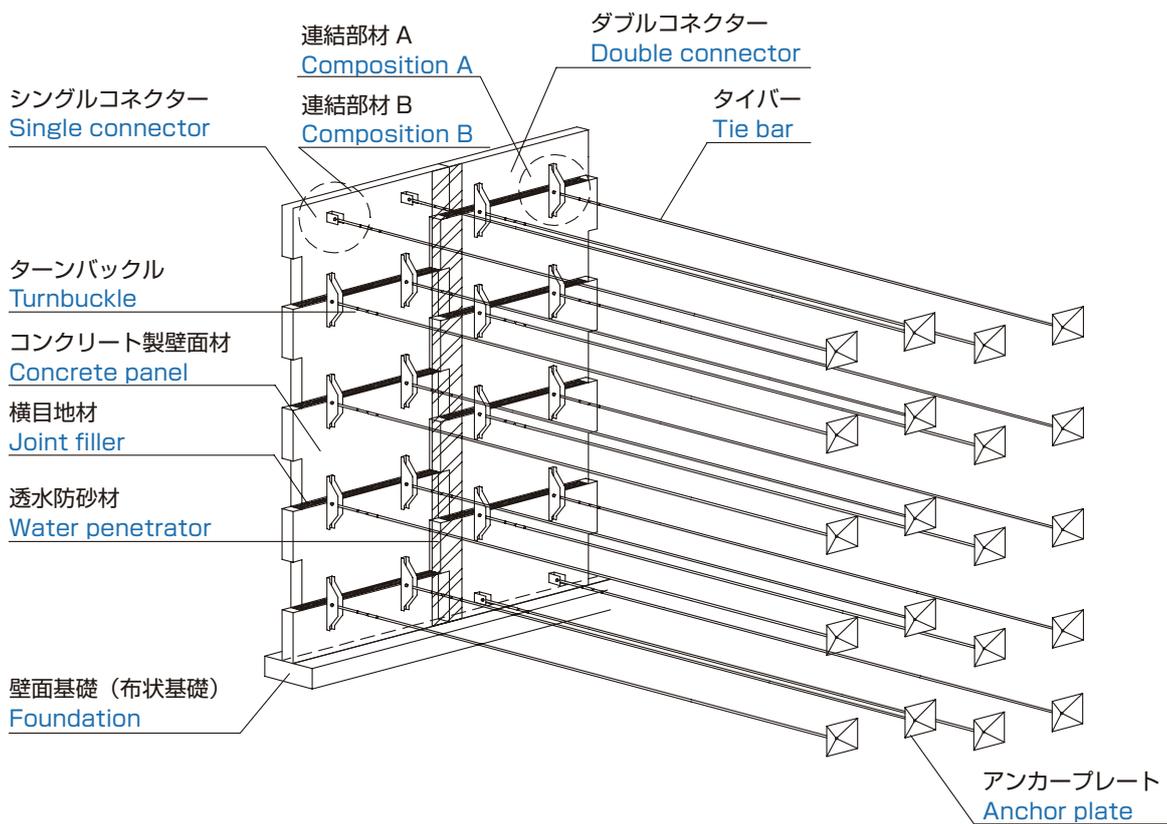


多数アンカー式補強土壁工法は、1970年に旧建設省土木研究所にて考案された「杭張材を用いた盛土安定増大工法」を原案とするわが国独自開発の補強土壁工法です。特徴としては、下記6項目です。

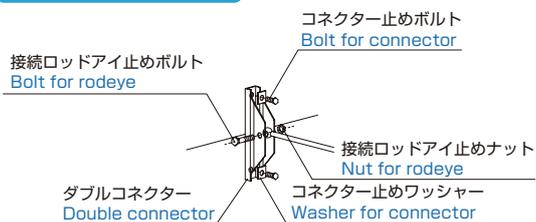
- ①現場発生土を有効利用できる。
- ②補強領域背面の岩盤が強固な場合は、ロックアンカーとの併用で掘削土量の削減を有効にします。
- ③部材は全て工場製作でタイバーに組み込んだターンバックルにより壁面の鉛直調整が容易で工期短縮が図れます。
- ④近年頻発する震源地近くの実態調査でも、その優れた性能が確認されています。最大壁高25m超の実績があります。
- ⑤用地確保困難な都市部から、河川断面を侵せない峡谷部の付替え道路まで、あらゆる盛土の現場に適応します。
- ⑥維持管理方法をマニュアル化し、点検、記録項目を明確化しています。

各部名称(全体)

補強土壁



連結部材 A 詳細図 Composition A



連結部材 B 詳細図 Composition B

